

令和3年度岩手県立博物館協議会議事録

日 時	令和4年1月26日(水) 13時30分～15時20分
場 所	岩手県立博物館 講堂
出席委員	阿部真一、小野寺哲男、大坊邦子、下川原章勝、福島茜、星俊也、細越千絵子、松政正俊、山本玲子、石川京子、丸山ちはや 各委員(11名)
(県側出席者)	藤原安生生涯学習文化財課総括課長、岩渕計文化財課長、佐藤正徳主任
生涯学習文化財課	山崎隆文化振興事業団事務局長
文化振興事業団	高橋廣至館長、工藤善彦副館長、濱田宏学芸第三課長、木戸口俊子学芸第二課長、金子昭彦学芸第一課長、菅野主任専門学芸調査員、鈴木主任専門学芸員、丸山主任専門学芸員、望月専門学芸員、花山智行総務課長、田原かおり主事
博 物 館	

1 開 会	
司会進行 総務課長	<p>協議会委員総数 15 名中、本日の出席者は現在 11 名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第 9 条第 2 項の規定により本会議の成立を報告する。</p>
2 館長挨拶	<p>皆さんこんにちは、本日は大変お忙しい中、寒い中、また、足下の悪い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。県立博物館、館長の高橋廣至と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>最初に、今年度 初めて委員になられた方も多くいらっしゃいますので、例年のように開館設立について少しお話しして、その後に、今年度 1 年遅れで開催しました 40 周年の記念展等につきましてお話させていただきたいと思います。</p> <p>当館は、昭和 55 年 10 月 5 日、「郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与すること」と、「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示、という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰でもが、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場を設置する」という基本構想のもとに開館しました。</p> <p>開館時から 41 年間、総合博物館として原始から現代に至る岩手の歴史の流れと時代の特色が展観できるよう、常に創意工夫を凝らして参りました。</p> <p>これまで当館では、周年行事として 10 年ごとに岩手に因んだ特別企画展を実施してまいりました。</p> <p>今年度、1 年遅れで開催しました開館 40 周年記念特別展では、「みる！しる！わかる！三陸再発見」をテーマとして、三陸地方のまだ広く知られていない部分に光を当て、三陸とはどのような地域であるのかを自然史・文化史の観点から多角的に紹介致しました。また、昨年 40 周年の年は東日本大震災から 10 年目にあたりましたので、記憶を新たに、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を高める契機にしたいとも考えておりました。40 周年が延期になった際に、沿岸地域の皆様からの残念な思いが当館に多く届いておりましたので、1 年遅れでありましたがこの企画で開催できましたことを大変嬉しく思っております。また、宮古市の岩手県立水産科学館での</p>

巡回展も大変好評でありました。

次に、現在、開催しておりますテーマ展、「教科書と違う岩手の歴史」展につきましては予定どおり順調に開催を続けています。年度またぎのテーマ展「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」展も、コロナ状況が心配されますが予定通り実施したいものと考えております。

この2年ほどの期間はコロナ、コロナで明け暮れておりますが、展示はもとより様々な事業やイベントにお子様から高齢者の方まで、徐々に参加する方が増えております。つい先日も盛岡二高のギター・マンドリンの演奏会があり沢山の方にいらしていただきましたが、皆さん、家族で楽しめる場所を求めていらっしゃることをつくづく感じました。まだまだこのような状況は続くものとは思いますが、今後とも来館者の皆様の健康を第一に考えながらも、博物館での一時を楽しんでもらいたいと思っています。

次に、当館が東日本大震災以後、継続して取り組んで参りました被災文化財修復作業ですが、今年度で10年目を迎えました。被災した県内の「郷土の宝」を救うため、県立博物館でも震災直後から被災した陸前高田市立博物館等の資料の受け入れを開始し、全国の専門機関と連携して国からの補助を受け、被災文化財の再生に取り組んできました。今年度で被災文化財約46万点のうち30万点余りの修復が終わりました。この被災文化財修復作業は、地域の文化や歴史を過去から未来につなぐ作業でもあり、全ての文化財修復の完了を目指して作業を続けております。

次に当館の明るい話題として、昨年11月13日に開館以来の入館者数が300万を達成しました。職員に私は、「40周年の記念の年に300万人達成しましょう」と5年前から話して来ましたが、コロナ感染のために1年遅れとなってしまいました。しかし、この記録達成も、長年、当館が県民の皆様へ愛されてきた証でありますので、これまで岩手県立博物館を支えていただきました全ての皆様に心から感謝申し上げます。

最後になりますが、41年前の県立博物館落成記念式典で、当時の中村直知事は、「この県立博物館は、開かれた博物館として、広く県民に利用されることを念願しています」と話されました。

「開かれた博物館」とは、先程お話ししましたように、年齢、性別、学歴を問わず、誰でもが学習できる場として利用される博物館に違いないのですが、果たして、多くの人は何を求めて博物館に出かけるのかを考えてみました。私は博物館でしか味わえない「面白さや楽しさ」を求めて出かけるような気がしています。そして、その博物館の「面白さや楽しさ」は、知的好奇心から生まれるものと思っています。知らなかったことを知りたいという思いは人間の本能に違いありません。「今日の博物館、面白かった、楽しかった」の気持ちが、また、博物館に足を向かわせるものと思います。

岩手県立博物館は、常に「知的好奇心をくすぐる博物館」であり続けたいと思っています。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

3 委員紹介

出席委員紹介

4 職員紹介

出席職員紹介

5 会長選任	星俊也委員を会長に互選（再任）。
6 議 事	管理運営規則第8条の規定により、本会議の議長は会長が務めることとする。 会長から職務代理者に菅野文夫委員を指名。
(1) 報告事項 [議 長]	報告事項2件を議題とする。
[総務課長]	「報告事項ア 令和2年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」総務課長から資料により説明する。
【質疑応答】	特になし。
[工藤副館長]	「報告事項イ 令和3年度岩手県立博物館事業実施状況について」及び「新型コロナウイルス感染防止に向けた博物館の対応状況について」副館長から資料により説明する。
【質疑応答】	移動展は宮古で行われたということである。
[丸山委員]	<p>県博は盛岡市中心部から離れており、なかなかアクセスが良くない所で、階段も長くて高齢者等は大変である。</p> <p>移動展をもう少し積極的に行えば、多くの方々に興味を持ってもらえるのではないかと。同じ県の施設である美術館と比べて、断然少ない。多くの人がいる場所に向いて提供ということはどうか。</p> <p>小中学校生が授業の一環で見に来るという現状で、興味のある方は来るが、大学生も一回も来ていない人も多い。</p> <p>移動展の時の様子はどうだったか。</p>
[濱田課長]	<p>入館者数は少なかった。水産科学館が少し遠い場所だったこともあると思う。</p> <p>それとは別に、博物館の展示に直接触れることが少ない地域に出かけて行って展示することをおこなってはやっていた。</p> <p>現在休止しているが、今後またやっていくことも考えている。</p>
[丸山委員]	<p>盛岡市街地でやることは考えているか。例えばアイーナにサテライトを設置するとか。盛岡でなく、花巻、北上、一関などでもいいが、街中で県博資料に触れる機会がないので、そういう企画があるといいと思う。</p> <p>企業が商品開発をする時のヒントになるものが、ネーミングとか、新しく地産地消のアイデアとか、博物館は地域資源の宝庫だと思う。企業に勤めている人とか、社会人とかもターゲットにした企画があれば、いいのではないかと。広がりがある形が、ヨーロッパの博物館にはよくある。</p> <p>移動展を休止しているというお話があったが、再開に向けて検討していくとき</p>

	に、このような視点もあるということで話させていただいた。
[濱田課長]	学芸員がアイデアを出し合って、次につなげていきたいと思う。
[議長]	かつて自主事業で行っていた移動展について、どこに、どんなといった例を2、3挙げてもらえるか。
[濱田課長]	最後は一関文化センターで行った。その際、レプリカ、パネル、資料等、一関市周辺のものをお持ちして、見ていただいた。沿岸地域は、数年かけて数か所に行った。 基本的な考え方としては、なかなか簡単には目に触れることが難しい地域をターゲットに行ってきた。
[福島委員]	展示の個別の感想になるかもしれないが、まず「見る、知る、わかる！三陸再発見展」を拝見した。総合博物館ならではの幅広い分野の展示であり、内陸に住んでいる人にもわかる面白い展示だった。 入口にあった地質関連の地球の映像が、球体に映して、一瞬3Dに見えるようなとても面白い見せ方で、予算をかけずに工夫していて素晴らしいと感じた。 もう一つ「教科書と違う いわての歴史展」もジャンルは考古部門一つであるが、幅広い時代のものを見られて面白かったが、一点だけ。 「教科書と違う」というのがタイトルについているので、もう少し全国の歴史の中で、岩手の弥生から古墳時代が一体どのように違うのかを具体的に示していただけると、さらに、考古学に親しんでいない人にとって全国の弥生時代さえ常識ではないので、そういうところを「教科書にはこう書いてある」とか、あるいは「全国的にはこういう流れだと言われているが」「岩手はこう違う」といったものが説明されていけば、より分かりやすかったのかなという感想を持った。
[金子課長]	「教科書と違う・展」担当である。全国、あるいは教科書に書いてある当時の様子を第一章で展示したつもりだったが、違いをはっきり示せという意見はほかにもいただいた。率直に話すと今回は「教科書と違う」がメインではなくて、岩手の弥生から古墳時代はほとんど知られていないので、それを展示するということだった。 実は、縄文時代の岩手は世界遺産にもなり、展示するものが多くあるが、弥生から古墳時代はそれが少なく、それを見てもらうにはと、考えたネーミングだった。 ご意見を参考にして、今後に生かしていきたい。
[館長]	関連の日曜講座を5、6回行った。その中では、教科書に書いてあることとの違いが、素人でもわかる内容であった。 それを少し展示にも生かしていければよかったのかなと思う。
[松政委員]	入館者数が昨年より約5千人増えているが、これは単にコロナの状況が良かった

	<p>ということか。</p> <p>ツイッター等SNSでの発信の影響もあるのか。そういう発信をしていることで、その効果があったのか、教えていただきたい。</p> <p>それから日曜講座は良い講座が多いと思うが、展示に足を運んでもらえるように、講座の内容をユーチューブで見られるようにすることもいいのではないか。これは意見である。</p>
[濱田課長]	<p>SNSの効果が具体的にどの程度というのは難しい。これからは、どんどん発信していくべきと考えている。</p> <p>ユーチューブの活用も含めて、今後さらに取り組んでいきたい。</p>
(2) 協議事項	
[議長]	<p>「令和4年度岩手県立博物館事業計画（案）について」を議題とする。</p>
[副館長]	<p>「令和4年度岩手県立博物館事業計画（案）について」副館長から資料により説明する。</p>
【質疑応答】	
[阿部委員]	<p>企画展「赤色に宿るチカラ」は魅力的なネーミングであるが、どんな内容か教えてほしい。</p> <p>それと、恐竜化石のレプリカ作製とあるが、子ども達がすごく興味があり、人気があると思うが、何の恐竜を作るのか教えてほしい。</p>
[木戸口課長]	<p>「赤色に宿るチカラ」であるが、考古、民俗の両部門の学芸員が担当する。</p> <p>考古部門については、土器、土偶、土製品等赤い色が使われているものがあり、国の重文、重要なものも含まれているので、可能であれば借りてきて展示したいと企画している。</p> <p>民俗部門については、掛軸とか、仏様とか、命を表す、穢れを祓う等として赤が使われているものがあるので、昔から何故赤色が使われていたのか、考古、民俗両方の観点から展示する。</p> <p>また、民俗部門については、赤色以外のものも出して、違いを明らかにしながら展示するというような企画である。</p>
[望月]	<p>恐竜化石のレプリカ作製についてであるが、久慈市で多く発見され、度々ニュースになっている。予算の関係から全部にはならないかもしれないが、近年見つかったティラノサウルスの歯の化石などを作らせてもらえないかと企画している。</p>
[阿部委員]	<p>ますます興味が湧いた。是非、実現をお願いしたい。</p>
[議長]	<p>是非子ども達を連れてきてほしい。</p>
[大坊委員]	<p>震災の後は、私達も沿岸部を応援した。被災資料の修復については初めて知ったが、</p>

	<p>どういものか教えてほしい。</p>
[木戸口課長]	<p>陸前高田市立博物館に展示されていたものや、収蔵されていたもので、考古であれば土器や骨の製品、民俗であれば農機具や漁師の漁撈用具、紙資料というと古文書や漫画資料、自然史であれば植物や昆虫の標本資料などである。</p> <p>年度ごとに、部門ごとに分けて、安定化处理をしてきている。</p>
[大坊委員]	<p>いずれ見ることができるのか。</p>
[木戸口課長]	<p>陸前高田市の資料であるので、今年の秋に予定している陸前高田市立博物館が開館すれば、そちらに展示されることになろうと思う。</p> <p>当館でも安定化处理している途中のものをこれまで何回か展示させていただいた。最後は陸前高田市にお返しするものである。</p>
[小野寺委員]	<p>4年度以降についてのお願であるが、現在生徒一人1台のタブレットが入っている。自宅に持ち帰ってよいことにするか、検討中という状況である。</p> <p>よいとなった場合、博物館を訪れた時に、展示物にQRコードがあって、それを読み取るとその詳しい情報が見られる。仏像がある現地の情報、お寺の名前がわかるとか。この博物館に来ると、県内の文化財や民俗資料の居場所がわかって、つながるといふ拠点になったら、子ども達がタブレットを使って勉強しやすいのではないかと思います。</p> <p>今年度修学旅行がコロナで行けなかった。子ども達は行くはずだったところの情報をネットなどで調べていた。</p> <p>ここが拠点となれば、このホームページに入ればあちこちとつながって、民俗のこと、歴史のこと、食文化のこと、様々つながっていく拠点になれば、開かれた博物館にもなってくるかと思う。直接来ればもっとわかるし、県博ホームページを訪れると色々つながっていく。</p> <p>午前中に、総合展示室の岩手の歴史のホームページを見た。この内容は、中学三年生位だとわかると思うが、もう1回クリックすると小学生でもわかるとか、写真がもっと増えてくるとか。</p> <p>これの維持管理には予算を伴うので、すぐには難しいかもしれないが、現在一人1台タブレットが子ども達の手にあるということ、これを活用するようにすると、もっと面白いことになるのではないかと。</p> <p>もう一点は、大人の視点である。岩手山を望む非常に眺望のいい場所にあるので、野外で何かできないか、活用できるのではないかと。</p>
[議長]	<p>タブレットの活用、野外を使えないかという2点であった。</p>
[木戸口課長]	<p>タブレットの関係は、今求められていることだと感じる。</p> <p>ホームページを開くと、次から次へと色々な情報が見られるというのは一番いいと思うが、やはり予算も関わってくる。</p>

	<p>また、それをやるための職員が必要で、当館の学芸員だけではなかなか厳しい状況である。</p> <p>今ホームページも当館の学芸員が、合間を縫って更新したりしている。予算と人、これをお願いしながらなんとかしていきたいと思っている。</p> <p>外でのイベントについては、当館は素晴らしい環境であるので、博物館まつりで芝生広場を使ったイベントを行ったほか、岩石園や植物園もあり、見ていただけるようにしている。</p> <p>この冬は雪像を作ることなども計画したが、雪が突然どっと降ったりして、なかなかうまくいかなかった。自然環境を生かしたイベントをこれまで以上に考えていきたい。</p>
[鈴木]	<p>タブレット端末の関係であるが、魅力的な提案ありがとうございました。</p> <p>この10年ほど資料のデジタル化、3D保存などの事業を進めており、データは蓄積されている。</p> <p>子ども達のデジタル環境が一気に改善したので、進めてきたコンテンツの活用がこれからできるかと考えている。</p> <p>それと館内で「ポケット学芸員」というアプリを活用した展示解説の仕組みを導入している。タブレット端末を持参して、これを活用していただければ、画像とか動画も見られる。これもコンテンツを増やして、館を訪れる更なる楽しみとなるようにしていきたい。</p>
[館長]	<p>収蔵物で学習指導要領に載っているものがどの位あるか、今年から作業に組んでいる。前にやったものが古くなっているのを改めてやっている。この作業は本当に大変だと思う。</p> <p>それで先生方に来ていただいてどういうものがあるか見ていただいたり、出前授業に使ったりしているが、委員からお話があったように、それらを見せることができるようにすればいいのかなと考えている。</p> <p>デジタルミュージアムということで取り組んでいたものが現在、中断した形となっている。お金がかかることではあるが、検討していきたいと思う。</p>
[丸山委員]	<p>ポケット学芸員が大好きである。いながらにして日本中の展示物が見られる。コロナで出歩けなかった時は、ポケット学芸員から入って沖縄の美術館、博物館や北海道の博物館を見たりできた。しかも、動画や拡大映像も見たりできる。</p> <p>小中学校であまり知られていないが、全国に面白いものが沢山あるので、私もお勧めである。</p> <p>この場所の話であるが、松園には犬を飼っている人、散歩している人が多い。</p> <p>博物館だより2017・153号で猫の絵馬の資料があり、養蚕が盛んだった時代、幕末からの頃、猫の絵馬をかけてネズミを退散させるということだが、愛らしくて可愛いのが沢山あった。</p> <p>子どもよりペットの方が多く時代なので、ペットに注目してそれに関連する展示をしたら、来館者を呼ぶのではないかな。</p>

	<p>あるものを見せるというのが基本だとは思いますが、今の時代にどういうものが合っているのかと考えると、そこもいいアイデアが浮かぶところではないか。</p> <p>博物館に親しむ事業の中に、そういうものを取り入れていくと、小中学生だけではなく、一般の人たちの裾野も広がるのではないか。</p>
[議長]	<p>ポケット学芸員のアプリは、誰でもダウンロードできるのか。</p>
[丸山委員]	<p>できる。アプリをダウンロードしてどこかを訪れると、展示物の説明も全部出る。社会や国語の授業等で使えるような情報が得られる。全部を登録しているわけではないが、現地に行かなければならないものをデジタル上で見られる時代になってきている。子ども達にもいいと思う。</p>
[議長]	<p>ちなみに、県博としてはこのように広めたいとか、取組みはどうか。</p>
[鈴木]	<p>当館の受付では、こういうアプリがあると掲示してご案内している。</p> <p>活用というと、まず中身の充実が先かと考えている。それとともにアピールしていきたい。</p>
[松政委員]	<p>テーマ展についてであるが、学問的な興味に応えるとともに、一般の人にアピールするには、世の中で注目されていることに関連づけていくのも必要なのかなと思う。</p> <p>例えば生物であれば、「生物多様性」、「気候変動」とか、水辺であれば「災害」とか。「CO₂」の問題とかも関係省庁のホームページで見られる。</p> <p>そういうところが、一般の人が興味を持っていることかと思う。そういうことが展示に組み込まれると、小学生から大学生まで、地元で即して学べたりできるのではないか。それを直接テーマにすることは別にしても、考えているテーマの中で、ところどころそういうことを関連付けていくといいのではないか。</p> <p>これから一般企業等からやらないきゃいけないと言われていたけれど、何故かわからないという人も多いと思うので。そういうことで仕事に関連して学んでいくことも可能ではないか。</p> <p>今後のテーマとして考えていただければと思う。</p>
[下川原委員]	<p>仕事柄聞いてみたいことだが、マイクロリーダープリンターの保守の事業があるが、対象になるものはどれくらいあるか。デジタル化の時代で、マイクロはあまり使われていないが、必要性はどう考えているのか。</p>
[木戸口課長]	<p>かなり古い機械であるが、明治、大正、昭和、古い時代の新聞の記事とか、南部藩の雑書関係とか、紙ではなくてマイクロで見て、当時の様子を、展示に伴ってとか、問い合わせに対応するためなど確認することがある。</p> <p>機械が古くなっているし、保管もなかなか厳しく、デジタル化できればと思っているが、時間と予算がかかるので、なかなか進まない状況でいる。</p> <p>貴重な資料であるので、機械の点検は欠かさず行って、いつでも使えるようにして</p>

<p>[下川原委員]</p>	<p>いる。</p> <p>岩手県ではレアな存在で、県博にしかないのではないかな。</p> <p>貴重な資料と思うが、それにコストをかけるのであればデジタル化を進めた方がいいのではと思う。</p> <p>博物館にあって価値のあるものだとは思いますが。</p>
<p>[山本委員]</p>	<p>操り人形展にしても、今年度行った展示にしても、とても魅力的で大変工夫されていると思った。展示の仕方を見るのも、私にはとても楽しく思っている。</p> <p>4年度の「赤色に宿るチカラ」も魅力的に感じ、楽しみにしている。</p> <p>最近コマーシャルで県博のものを見ることがあるが、こういうことも入館者数につながっているのかと思う。美術館のCMはよく見聞きしていたが、やっと博物館もコマーシャルを流すようになったと思っている。</p>
<p>[石川委員]</p>	<p>日曜講座を楽しみにして利用している。</p> <p>階段をずっと上がってきて受付のところで、当日の講座が中止になったのを知ったことが2度あった。</p> <p>下の駐車場のところに貼ってあれば、上まで上がらなくて済んだなと思った。</p> <p>それから、知らないでいる企画が結構あったので、宣伝の仕方というか、もう少し伝わるように思ったりした。去年2回ほど民放で博物館の企画展のコマーシャルを見て、やっているのだなと思った。</p> <p>もう一つ、私は車の運転ができないが、地質観察会、自然観察会が現地集合となっていた。私は興味があったが現地には行けないので、1年に1回位バスツアーのようなものを企画して、博物館から県民会館を経由してバスで出かけるとかあれば、楽しく参加できるのではないかなと思っている。よければ考えていただきたい。</p>
<p>[細越委員]</p>	<p>ツイッターの工夫とか、私からするともう少し頑張ってもらいたいと思う。</p> <p>せっかくやっているのに、情報が行きわたっていない。ツイッターを使う人にも伝わっていないところがあり、残念に感じる。</p> <p>ミュージアムショップは、博物館のオリジナルグッズが増えているようでありがたいと思う。</p> <p>調査研究活動についてであるが、テーマ選定中となっているが、本年度の説明を見ると、結構複数のテーマを扱っているのでは、おそらく継続中のものもあるのではないかなと思うが、できればタイトルが入っていると、何年後かでも関連の展示が見たいとか、委員にもわかりやすいのかと思った。せっかくの資料なので、これも書いてもらった方が、と思った。</p>
<p>[議長]</p>	<p>あと2、3あればどうぞ。</p>
<p>[細越委員]</p>	<p>私見であるが、博物館のスタッフのスーツの制服が前から気になっていた。伝統だとは思いますが、解説もするし礼を尽くした形とも思うが、寒いとか、靴だと足が痛いとか</p>

	<p>かないのか。</p> <p>何より、震災の展示をやっていて、3.11を経験されたスタッフもいると思う。中にいる人を誘導しなければならない時に、あの靴はちょっと大変ではないかと思う。雪の時は靴を履き替えなければ出られないのではないか。ちょっと見直してもいいのではと思っている。</p> <p>例えば科学館とか、もう少しラフなものがあるが、スタッフジャンパーとかでもいいのではないか。その方が、小学生とかは質問しやすいとか、参加しやすいとか、スタッフだと分かりやすいということもあると思う。</p> <p>礼を尽くした丁寧な雰囲気は大事だと思うが、震災を経験したことを考慮していただいてと思う。自分が解説員だったら、スーツはクリーニングが大変とか思ってしまふ。</p> <p>何かあった時に、階段を上がり下がりすることを考えると、前向きに考えていただければと思う。銀行も制服がなくなり、私服になってきている時代である。</p> <p>貴重な意見と思う。子ども達から親しみやすい、声をかけられやすい、そういった対応のあり方ということも含めて、検討してもらえればと思う。</p>
[議長]	
(3) その他	
[議長]	<p>その他何かあるか。</p> <p>なければ以上で議事を終了する。</p>
[総務課長]	<p>館長からのお礼の挨拶の前に、第1回写真コンクール「私の岩手山」の入賞作品の紹介DVD（約5分）を上映させていただく。</p> <p>上映終了。（拍手）</p>
[館長挨拶]	<p>本日は、長時間にわたり、貴重なご意見をいただいた。心より感謝申し上げます。</p> <p>今年度もコロナに始まり、コロナに終わったという感がある。</p> <p>1年間を振り返ってみると、コロナ禍ではあったが、年度末には3万人近くのお客様が入ってくれることになりそうである。保護者の皆さんには、博物館は安心な場所との認識から、多くのお子さん達を連れて、一緒に来ていただいたと思っている。</p> <p>博物館ではツイッターとかホームページでのお知らせのほか、県内の小学生全員にチラシ「いわはく子ども新聞」を配っている。それが一番功を奏しているのではないかと思う。比率からすると、コロナ前は、40年前の子ども達の来館者比率よりも高く、人数は比較にならないが、博物館に来てくれる子どもの割合は高くなっていた。</p> <p>なかなかデジタル化は費用もかかるということであるが、アナログ的なことも必要で、まだまだ工夫していかなければならない。</p> <p>20から21ページの自主事業は、職員に工夫してもらっているところである。</p> <p>博物館まつりは、1日で3～4千人とか来てもらえるイベントで、これができなくなったのが、入館者数減に影響しているのかと思う。</p> <p>ミニSLを呼んだりとか、Nゲージをもってきて見せたり、岩手大のジャグリングとか、県内の高校生の郷土芸能披露とか、色々な形でやっている。</p>

ミュージアムコンサートも、県内の高校生が活躍しているので、合唱、吹奏楽の入賞校などに来てもらい、本当は講堂が満席になるほどであるが、制限しなければならぬとかある。クラシックカー、新車ショーなどもやったが、色々できなくなっているのが残念である。

ちなみにこの20年間で来館者数3万人台は9回ある。コロナの前は、この5年間で4～5万人であった。それだけ職員が頑張っているというところをご承知おきいただきたいと思う。

老朽化しているので、階段の前のところでお知らせを工夫しなければということも大変参考になった。

かつて永六輔さんがこの博物館を称して、日本で1番高齢者に不親切な博物館だとラジオで言ったということをお伝えしている。酷いことを言ってくれたなとは思いますが、今となっては元気がいい頃の松園と比べると、高齢者の方が増えて、本当は何らかの手立てをしなければならない。長崎のようにエレベーターを作ればいいが、なかなかお金もないので難しいが、皆様にいただいたご意見を参考に、今後も運営して参りたいと思っている。

先ほど見ていただいた「私の岩手山」は、私がどうしてもやりたかったもので、ネーミングを失わないように、毎年は難しいかもしれないので、できる時は今後もやっていきたい。何と300点の応募があった。応募者の平均連例は60数歳であった。高齢者向けの企画としては非常に良かったと思っている。

職員には様々な企画を、ということで話しているが、皆様からも何かあればお知らせいただきたい。

いずれにしても、今後とも来館いただいたお客様の健康と安全に留意しながら、コロナ前の状態に早く戻れるようにと願っている。

委員の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いしたい。

本日はどうもありがとうございました。

7 閉会

[総務課長]

以上で協議会を閉会とする。
(テーマ展・トピック展を案内。)